

施策名 (小項目)	河川改修・砂防施設整備	決算書 P158-161	(款)8 土木費 (項)1 河川費
コード	04-05-17	作成者	建設課長 淵本 安志 (tel 64-1833)

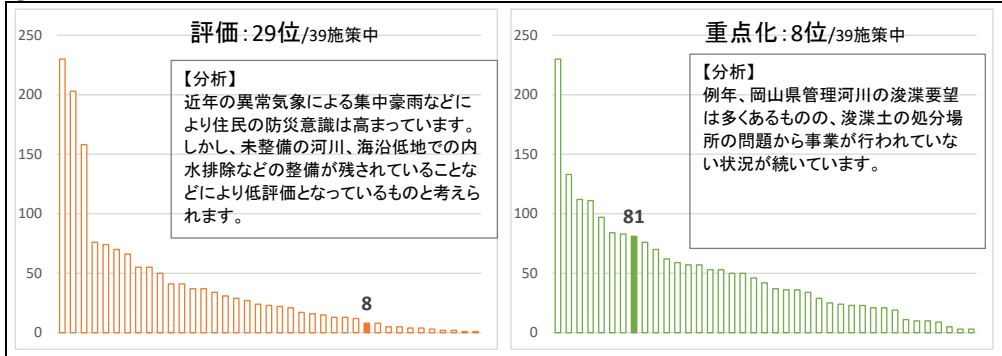
この施策の アピール ポイント	大雨による洪水・土砂災害から市民の生命・財産を守る。
-----------------------	----------------------------

この施策の 令和元年度の 施政方針	河川改修・砂防施設整備につきましては、災害に備え、国、県とも連携し整備を進め、防災機能の向上を図ってまいります。砂防施設整備につきましては、引き続き五石地区の急傾斜地を県事業により整備してまいります。また、河川の浚渫につきましても、残土処分場の完成に向けて関係者との協議、設計を進めてまいります。
-------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<備前市総合計画の内容から記載する>

① 政策の体系	基本構想(大項目)	土台となる政策「安全・安心」
	基本計画(中項目)	安全に暮らせるまち
② 対象と目的 (誰のために、何のために)	市民の生命・財産を、洪水・土砂災害から守る。	
③ 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	本市では、これまで台風による集中豪雨や高潮による大災害を経験してきましたが、河川、砂防対策を行ってきた結果、一定の効果は上げています。しかし、河川について、未整備の河川護岸が残っているほか、海沿いの低地では、高潮対策のための水門・フラップゲート(※)等の設置を進めている一方で、内水(※)の排除が引き続き課題となっています。また、急傾斜地・土石流危険渓流など、土砂災害のおそれのある箇所については、県が区域の指定を行った上で地区ごとに説明会をおこなっています。今後も、国や県、関係機関連携のもと、河川の浚渫(※)をはじめ砂防対策を推進し、災害に強いまちづくりを進めていく必要があります。	
④ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> 計画的かつ円滑な施設整備 急傾斜地等の整備促進 内水排除の事業化 景観への配慮 国・県への要望強化 災害等緊急時における関係機関との連携強化 	

⑤ 市民意識調査による施策の評価・重点化



⑥ 施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

成果指標	施策に対する成果指標名	単位	過年度実績		評価年度 R1	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
			H29	H30			R3	R5
河川改良箇所	目標	箇所	9	9	9	年度ごとの改良箇所数	R3	10
	実績	箇所	4	7	8		R5	10
	達成率	%	44.4	77.8	88.9			
	ベンチマーク							
市民からの要望への対応	目標	%	75.0	75.0	75.0	改良・修繕箇所数/要望箇所数 箇所/箇所	R3	80
	実績	%	67.0	46.4	61.9		R5	80
	達成率	%	89.3	61.9	82.5			
	ベンチマーク							
河川清掃ボランティア参加団体数	目標	団体	20	20	20	参加団体数	R3	20
	実績	団体	17	17	18		R5	25
	達成率	%	85.0	85.0	90.0			
	ベンチマーク							
河川清掃ボランティア団体活動実施回数	目標		60	60	60	活動回数	R3	60
	実績		47	53	55		R5	65
	達成率	%	78.3	88.3	91.7			
	ベンチマーク							

⑦ 目標達成に必要な新規事業(施策構成事務事業以外の事業)及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
国・県	それぞれの管理区間との連携	連携を密にすることにより、効率的整備と効果の早期発現が期待できコストも縮減できる

⑧ 施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判断理由(なぜ、そのランクと評価したのか)	
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか?	4	河川改良箇所は、災害防止のため整備を進めて行くうえで直接成果を表す指標。修繕要望に対する実施率及びボランティア参加団体数は維持管理上の指標として妥当である。	
2 <事業構成の妥当性> 手段は最適か?	4	防災機能の向上及び被災したものの復旧など河川機能の改良と維持には掲載の各事業の他に手段はないと思われ最適である。	
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは?	4	不確定な要因が多く目標達成は厳しいが、着実に整備を進めていくことにより、中長期目標はできると見込んでいる。	
進行年度(R2年度)の取組内容 (課題解決状況)		県管理河川については県との調整を十分に行い整備を進めます。市管理河川については継続的に浚渫、改良をおこない適正な維持管理に努めます。又、浚渫土処分場の建設を進め早期完成を目指します。	
翌年度(R3年度)の取組目標		引き続き継続中の浚渫、改修を進めていくとともに、県管理河川についても強力に要望していきます。ボランティアや地元関係者と連携し、現状の把握や適切な維持修繕に努めます。又、浚渫土処分場の建設を進め早期完成を目指します。	
二次評価者コメント		市管理河川の浚渫は、堆積状況や危険度を判断して進めて下さい。市の残土処分場についても引き続き、関係者と協議を慎重にしながら、進入路の整備工事をすすめてください。県管理河川の改修、浚渫は、事業が進められるよう県との協議、要望に努めてください。	基本施策への 貢献度 4 やや高い